

平成24年度 広島文化学園子ども・子育て支援研究センター講演会（講演要旨）

幼少期に自然環境に触れることの重要性

～生きる力を育む自然の中の遊び～

学校法人 関西学院聖和幼稚園 園長

出原 大（いずはら だい）

日時：平成25年2月16日（土）

場所：広島文化学園 広島 長束キャンパス音楽講義室

出原 大氏のプロフィール

聖和大学大学院教育学研究科博士課程前期修了

保育雑誌に自然・植物遊びの記事を連載

全国の園を回り環境や自然教育について語り合う

論文・著書多数



1 はじめに—私が幼稚園の先生になった経緯—

出原 大（いずはらだい）といます。どうぞよろしくお願いたします。今日は、学生さんは、これは授業ですか？ 申し訳ないなあと思いつつ、みんなも2時間もしんどいでしょう。特にこういうテーマは嫌なんじゃない？ 自然のこととかは聞きたくもないって話なんじゃないかなあとも思って、今日は始めの方は全然違う話をしようかなと思っています。最後にちょっと自然の話をして軽く終わろうかなって。楽しい紙芝居をみんなに用意してきました。紙芝居見たいよね？（学生「はい」）じゃあ、そうしよう。

・ここで紙芝居『おおきく おおきく おおきくなあれ』『ごきげんのわるいコックさん』（まついのりこ作）を紹介。（中略）

なんで僕が紙芝居を読んだかという、僕は幼稚園の先生で、20年間は保育をして、その後、園長になって5年目。僕は子どもの遊びの環境の事を考えるために、園庭を森のような環境にし、その中で子どもたちが小さいころから過ごしてほしいと思って、自然環境と子どもの事をずっと研究してやってきました。そんな中で、子どもと植物遊びの本を、3年ぐらい前に学研さんから出してもらったのです。その後、日本全国の方から呼ば

れるようになって、最近は、植物の事ばかり聞かれるようになりました。僕は保育者なのに、木をどうやって植えたらいい？ とか、肥料はなにがいい？ とか、この木はなに？ とフェイスブックで写真を送ってきたりとか、そういうふうになってしまったから、僕は保育者だということで、紙芝居からやりました（笑）。

僕は、最初から幼稚園の先生になりたいと思っていたわけではありません。私は、大阪の豊中というところで育ちました。1970年に万博があったところですが、その近くに住んでたんです。まだトトロにでてくるような風景でした。道なんか舗装されてなくて、山や川、池とかで自然物に存分にふれて遊んでいたんです。小さいころはその山に行って竹林を見てたら、どこからタケノコが出てくるか分かるぐらいでしたし、この土やったらツクシがとれるんじゃないとかいうのも分かるぐらいに自然に親しんで遊んでいました。毎日、本当に楽しかったんですよ。でも、そういう体験を幼少期ずっとしてきたから、子どもたちに自然体験をと思ったのではなかったんです（笑）。

実は僕、小学校の時に笛がすごく好きになった。小さいころに家に帰るときに、ピーって笛を吹きながら帰る子とかいたでしょ。僕、ああいう

子だったんです。笛を吹いていると、ものすごく楽しかったんですよ。笛で仕事しようかなと思うぐらい（笑）。そこで、4年生の音楽の授業で、笛のテストをするって言われてましてね。先生から「フォスターの曲を吹いてもらいます」といわれてうれしくなりました。僕ははりきって吹き、間違っではなかったんですが・・・そしたら、先生がものすごく怒って、僕の笛をバーン！と叩いたんです。で、僕、歯が割れてね。血が出たんですよ。未だに割れてます（笑）。その上に、ビンタまでされて、バチーン。どうしてかと言うと、先生いわく笛の吹き方が正しくなかったらしいです。「タンギング」っていう舌で音を止めるのができてないって、怒って。僕は、それをちゃんと聞いていたんですが、それより、こっちの方がカッコいいと思って吹いてたんですが。もっと上手に教えてくれたらねえ、叩かなくても。もっと分かりやすく、「おまえの吹き方はちょっと（舌で）止めた方がカッコいいぞ」と上手に魅力的に指導してくれたらいいのに。音楽の先生は、みんなが音楽が好きになるために教えてるのと違うの？と思って。

それで、二度と笛なんて吹いてやるかって、この先生の顔も見たくないって思って、小学校4年生のときから、4, 5, 6年生、小学校行ってないです。それからずっと、毎日朝から山で遊んで昼から友達と合流する日々でした。化石見つけたりしてずっと外で遊んでいました。

その頃に、実はまた違う音楽と出会いました。うちは兄がミュージシャンで、中学生からドラムを叩いてたんですけど、ロックを聞いてカッコいいなと思って、そうは言っても兄弟でまねしたらカッコ悪いから、ちょっとドラムはできんわと思って。その音楽を聞いているとオルガンとかピアノがカッコいい。それをちょっとまねしてみた。どっかで弾きたいなあと考えていました。すると、いつも行く山の中に、外国人の家族が引っ越しされて廃屋になってたところがあり、その二階に、ピアノが捨ててあったのです。うわあ、カッコいいと思って弾いてるうちにいつも聞いているロックと似てる音が出るなあと考えて。弾いてるうちに、弾けるようになりました。長いときは一日に8時間ぐらい弾いてました。自分で好きだから弾けるなあと。学校に行っていないから、ずっ

と朝から夕方まで弾いて。そのまま、一回もピアノを習ったことがないけど、音楽の学校を受験したら合格しました。だから、自分で好きになるということが大事だって、自信を持ちました。みんなピアノ嫌いになったりしてないですか？この中でピアノを習ってる人、いっぱいいるでしょ？習ったことがある人も。日本は世界で一番、ピアノを習ってる国だって知ってましたか？ところが、大人になってピアノを一番弾いてない国なんです。滑稽でしょう？音楽嫌いを作ってるというか。学校教育もまさに今そういう部分があって、僕はやっぱり芸術なんか点数をつけられるのは、なんでなん？って。やっぱり好きでやるっていうことは大事ですね。人生の豊かさのために音楽ってあるんですよ。

高校3年生のときにミュージシャンになりたいと、髪の毛をお尻ぐらいまで伸ばしてたんです。そのときに、親戚の子どもの保育所の送り迎えを頼まれたんです。それで、髪の毛が長い僕が行ったら、保育所の子どもは「うわー鬼が来たー」とか言って、髪を触ったりとか、引っ張ったりとかして。それで子どもたちがいっぱい寄ってくるから、遊んであげました。保育所の裏庭に、山みたいな斜面があって。一緒に遊んだら、子どもがおもしろいって言ってきて、そのとき保育所の先生が、あなたは子どもとすごく楽しそうに遊べるね。幼稚園の先生になったら？と言われてました。

当時、今から30何年前に幼稚園の先生を男がやるっていうのはイメージできなかった。俺はロックやるんだと思ってたしね。幼児教育にも全然興味はなかったんだけど、ふと思ったのは、子どものころ楽しかったなあということ。あのときのように、今の子どもみんなにも体験してほしいなと思って、家に帰って母親に幼児教育に入りたいって言った。聖和大学は初めて男性の受け入れを始めるところだったので、そこへ行くって言ったら、うちの母親が「いきなさい、いきなさい」。それで行きました（笑）。行ったら、髪はこんなんでしょ。金髪に染めてたから外国人の女の子と思われてたんですよ。それで、バッハの曲を最初に弾いたら、先生に「あなたは素晴らしい。あなたは男性的なタッチね！」と言われて（笑）。

そういうことで、僕の幼児教育人生が始まりました。僕は、そのままその大学の附属幼稚園に勤

めました。そこに勤めて、今25年目になります。僕はずっと子どもと一緒に毎日過ごし、勤めてからも、園長になるまでは髪がお尻まであった。そういう僕が子どもと過ごす中で小さいころに体験した自然体験みたいなものを豊かにしてほしいなあって。あれは絶対、生きる力に繋がることだと思ってました。

自然のことをいろいろ今日は話すわけですが、僕自身がうちの幼稚園でどういうことに取り組んできたかという事を、葉っぱも触ってもらいながら、話させてもらいます。

2 聖和幼稚園今昔—自然豊かな園庭の作り方—



30年前の園庭

実はこれが今から30年ぐらい前のうちの幼稚園です。まったくのグラウンドでしょう？ こういう園はまだあるよね。白っぽい土。グラウンドって、良くない土だってみんな知ってる？ 風が吹いたらパーッと粉吹いたみたいに、土ぼこりが起きますでしょう。あれ、不自然な土やって知ってた？ あれは、まず最初にグラウンドを作るにあたってコンクリート塊を入れて、そしてその上に真砂土まきどっていう土を置いて、除草剤を大量にまいて、草が生えないようにし、苦汁にがりをまいてかためる。そんなものが絶対に体にいいわけないです。そういう砂ぼこりの中には悪いものがいっぱい入ってる。で、これが(園庭の写真)その土です。白っぽいでしょう。これ絶対あかんわと思ったんです。

僕は、勤めてから2年間で木を1400本植えたんです。そこで、こんな感じになりました。



現在の園庭

すごいでしょ？ グラウンドに山みたいにこうやって築山を作って、うちの幼稚園は完全に作り上げた環境です。この環境で子ども達に自然体験してほしい。僕が小さい頃に体験したようなことができるだろうと単純に思ったからです。それから、何でこんな環境がいいのかという事を子どもの様子から見て行って自分の中で研究していきました。

シロツメクサって知ってますか？ クローバーとも言っています。四葉のクローバー集めたりしてたかも。クローバーの種を最初にいっぱい植えました。園庭中に。実は写真の足元にある緑のものがクローバー(シロツメクサ)。最初に子どもたちとクローバーの種をひたすらまいて、それが育って。このクローバーは根に窒素を抱き込む珍しい植物なんです。だから植物の栄養になります。レンゲは、みんな田んぼで摘んだことがあるよね？ レンゲもその根っこが窒素を抱き込む植物なんです。稲の肥料になる。そのレンゲをわざわざ種をまいて植えてるから、みんな、あれ摘んだらあかんよ(笑)。お百姓さんとしては困るんだけど、でも、少々摘ませてもらったわけよね。話を戻すと、そのクローバーはまず土を肥やしてくれる植物なんです。その土を肥やしたところに木をいっぱい植えてこのようになりました。



カミキリムシ

そういうことをいっぱいやって、そして植物環境が豊かになると、いろいろな虫が増えてきます。

3 幼児時代にさせたい自然体験

[スライド：カミキリムシの幼虫探し]

カミキリムシって、こういう木にたくさん卵を産み付けてね。このシナノキはカミキリムシが大好きな木なんです。すごく卵を産んで、カミキリムシだらけになる。そしたらね、すごいね、鳥ってちゃんとわかる。鳥でも、キツツキです。うちの幼稚園にキツツキが来るようになった。グラウンドのときなんか、全然鳥なんか一羽も飛んでこなかったけど、すごいなって喜んでたら、コンコンコンって。木でなんか食べてる。カミキリムシの幼虫を食べてたんです、キツツキは。キツツキが穴をいっぱいあけてて、そこから水が入って木の中が腐って木が倒れたんです。子どもらがそれで朽ちた木をつぶして、中からカミキリムシの幼虫が出てきた。1000匹ぐらいはウヨウヨ出てきて、子どもらは大喜び。小学生の子なんかはこうやって、枝を入れて上手に出すよね。幼稚園児はがنگんスコップで叩くからぐちゃぐちゃのゼリーみたいに潰れてしまう。それを見てて、うわあ、小さい頃僕が経験したようなことを、経験してるなあって。小学生は上手にやって、「おい、よく見とけ。こうやるんで」って、枝で幼虫を上手にほじくりだして幼児に教えてる。幼稚園児はうまくいかなかったのが、お兄ちゃんかっこいいから一緒にまねをして、だんだん上手にとれるようになる。こういうふうに変わっていく。子ども同士の関係もやっぱり自然の中でしっかり育つと、ようするに判断も育つ。自然の中で遊ぶことって大事やなってことを再確認したいと思って、このように子ども達のいろんな姿を見ていくようになりました。

[スライド：植物あそび]

カブとか、ラディッシュとか、ダイコンとか、そんな種をまいてたらいっぱい生えてきてね。ダイコンは大きくなったらこれぐらいまで伸びて花咲くって知ってる（1.5mぐらいの高さを手で示す）？ すごいきれいな花が咲く。菜の花って、みんなはアブラナって思ってるかもしれない。あれは、菜っ葉の花。キャベツも、タカナとか、レタスもホウレンソウも全部、菜っ葉の花は菜の花。カブとかダイコンとかは、すごいきれいな花が咲く。それを子ども達が採って、花のことを調べてるところです。

[スライド：アーティチョークの花]

これ、きれいでしょ？ アーティチョークっていう西洋のアザミです。^{こぶし}拳ぐらいあるきれいな花です。食べたことない？ あるでしょう？ あのイタリア料理とかで。これも茹でたら美味しいです。アーティチョークすごいきれい。僕はね、在来種って言われる、日本にずっとあるような植物だけじゃなくていろんなものを植えます。今の日本には帰化植物っていう外国から入って来た植物がある。そんなのを園にいっぱい植えたらいい。植えても、かならず、そこに合うものしか残らない。だから、いっぱい植えてます。これがすごいきれいだから感激してね、子どもは、「うわー紫色に光ってる」って言ったんです。この情景、おもしろいでしょ？ いろんなものを触りながら、触れながら子どもの頃に感性を育むような経験をしていくわけですね。

[スライド：エニシダ]

これは、エニシダっていう黄色い花。黄色い花っていうのは、水に溶けない植物が多いんです。ところが、このエニシダは水に溶ける。きれいな色水で遊んでます。スライド右下の写真は、ダイコンをすりおろして、バラの花びらを使って、ままごとあそびをしている。いい香りがしたり、ガリガリガリって削る感じを体験できて、触覚を使っておもしろい遊びができるね。みんな、こんなんしましたか？ 小さい頃。色水遊びっていうのは、だいたい絵の具を使ったりするかもしれないけど、うちの園では色水遊びの中で、ピンク色のヤブランという日本の蘭。和蘭ですけど、その蕾を潰して、子どもが色を出してる。下の写真は、黒いチューリップ。黒いチューリップを潰したらきれいに青い絵が描ける。それを子どもが発見して、「へえー、おもしろいね」って言うね。

[スライド：泡とラディッシュ]

すごい泡が出てるでしょう？ これ、木の皮から出てる泡なんです。すごいでしょう？ これ、30分ぐらいは泡が出続けるんです。30分ぐらい水入れて。あとでちょっとまたお見せします。

左側は、ラディッシュをすりおろしてるところね。ラディッシュのいい香りするやん。僕はこのときにね、はじめてこの子らが作ってるラディッシュで、あっ、これ、絵を描いたらおもしろいかと思って、赤い汁やから絵を描いてみた。ほ

ら、ラディッシュって、パンとかにもついてたら赤いのがつくでしょ？ あれ、食紅みたいだね。本当に絵を描いてみたら、しばらくしたら、周りだけ赤い筋が残ったきれいな絵になりました。おもしろいでしょ。それは、子ども達がやってる遊びから発見しました。

[スライド：オナモミ]

みんな“ひつつきむし”で遊んだりした？ これ、



オナモミ

オナモミっていう“ひつつきもつつき”なんですけど、これで遊んだことある人？ ちょっと手をあげてみて。今度、ない人。“ひつつきもつつき”って呼んでた？ 広島は違う？ “ひつつきむし”とか、“くつつきむし”とか言ってたでしょう？ これおもしろかったでしょう？ 投げたら、毛糸とかにびゅっとなついたりとか、女の子の髪とかについたら「とれないやんかー」「やめて男子ー」とか言ってたでしょう。実は、ちょっと寂しいこと言おうか。これ、絶滅危惧種って知ってた？ なんて絶滅危惧種になったかっていうと、子どもが植物に触れなくなったからです。オナモミっていうのは、人間が種をいろんなところに落としてくれることで増えていく植物なんです。あの、オオオナモミ（外来種）っていうのは、まだ河原とかで流れてきて、そこで種が落ちて増えていく。でも、このオナモミっていう、いわゆる在来種、日本に昔からあったもの。みんなが遊んでたもの、あれは、もうない。だから、それぐらい、子どもは植物と触れて遊んでないんです。この状況怖くない？ あれ、痛い知ってる？ あれを触って、あの原理をおもしろいと思って作られたのがマジックテープ。こういう体験ができていたのが、子どもたちが触れなくなってきて、こういう植物がなくなってきている。怖いですね。これはヌズビトハギ。まだ山とかにはいっぱいあるん

だけど。特にこっちのヤエムグラとかは、まだまだたくさんある。

[スライド：ヒイラギナンテン]

これは、木の実です。みんな、潰して遊んだりしてる。広島にもたくさんある植物です。おうちの玄関とかに植えてあるところないかな？ ヒイラギみたいな葉っぱで、ヒイラギとは全然違うんですけど。これ潰すと赤い汁が出る。赤い汁で絵を描いて10分ぐらいしたら色がこげ茶色に変わる。だから、子どもが「こげ茶やー」ってすごい喜んで、地面に絵を描いてただけど。「違う色出た、違う色出た」って。子どもたちはままごとをしながらこんな体験したりしてます。こういうこと、みなさんしませんでしたか？

[スライド：サワガニ]

これ、うちの幼稚園の庭でサワガニをとってるところ。それから、ヤマグワっていう木の実をとってるところです。さっき言ったように木を植えてるだけで環境がいろいろ変わっていったんです。

[スライド：アカメガシワ]

これは、アカメガシワっていう木の葉で、春には芽が出る。子どもたちが「きれいや」って言って、これ、めくったら緑色が出てくるねって。若い芽の後ろで、虫に食べられないように毛が生えてる。毛を取るとね、次の緑の葉っぱが用意されてる。大きくなったら緑色になる。これを子どもらがバンバンって叩いてスタンプにして遊んでました。きれいな葉脈が出てスタンプになります。

[スライド：ツツジ]

小さいころ、みんなツツジとか、チューチュー吸いましたよね。体験したでしょ？（ここで、用意した植物を出し、みんなに見せながらの説明が始まる）。

さあ、今日はちょっとそういうもので遊びましょう。今、いろいろお話したもの、こういうものに触れるということは、五感をいっぱい使うんです。さっき言ったオナモミ。ちょっと後ろ向いて（学生に投げしてみせる）。ほら、くつついてるのがわかる？ こんな遊びしたよね。触ってごらん。痛いでしょ？ ちょっとみんなに回してあげて。子どもたちはこういうものを初めて触って、痛っ！と思うんですよ。それで、オナモミは、クリンと回したら、取れるんです。クリンクリン回

したら取れる。こういう経験をしてるかしてないかが大事なんですよね。さっき幼少期に人生で一番心が動くって言ったでしょう。心って、我々、ここ（胸）って言いたいよね。でも本当は、脳の中でいろんな情報を得てるわけですよね。でも心臓がドキドキしたりするから、心が動いてるっていうんですけど。まあ、我々保育者は、心が動いてるねっていう言い方をするけど、脳がそれだけいろいろ情報を得て、学びを得ているという、人生で一番、五感が鋭敏な時期ていうのがあるんですけど。3, 4, 5, 6歳。まさに幼稚園ていう時期はその時期なんですよ。で、そういうときに、こういうものに触れておかないといけない。昔は、そういうものにいっぱい触れる経験をしてきた。ここにおられるようなみなさん、大人はそういう経験をいっぱいしてきた。学生さん、みんなもしてきた？

今の子どもはそういう経験のレベルが全然違います。今の子どもは、移動はほとんど車。自然の豊かな地域でも、意外とそういうものに触れてない。幼児教育のうちに、一番こういうものに触れて育つことが大事だていうのに触れてない。さっきのオナモミはこうやって触れると、「回すとパリパリと取れる」というような経験をする子どもは、一生懸命そういうことが応用できる。さっきのマジックテープを作った人もそういう体験からああいうふうにしたら、あっ、そうや、オナモミをもう一度見てみようって、どんなふうになってるか見たら、カギ状になってるんですね、先が。そういう発想や、応用力や、記憶も全部そういうのが関わってくるんです。幼児教育は直接体験が大事。幼児教育の中で、勉強させたりするのがはやりみたいになってるけど、本当はこういうふう自然物に触れるような直接体験が大事。それを仲間とすることによって、いろんな発見やいろんな学びがあるんですね。

さっきの泡が出る実がこれです。これはムクロジっていう木の実。これが中に入っている黒い種です。これが、外の皮です。ちょっと臭いね、これ。臭いから、戦後、日本中で木が伐られたんです。でも、この黒い木の実。何に使ってるか分かる？ 数珠とかにも使ってるんです。けど、実はこれすごい硬いんです、いくよ（床に投げつけてみる）。これは実は、お正月の遊びに使ってます。

羽根つきの羽根の先についてる、あれ、木の実なんです。ムクロジ。食べたりはできない。すごく固い実。昔は、こんなのも生活に利用して、子どもの遊びに使ってました。工夫してね。羽根つきやる時。おもしろいですね。で、これは、泡が出るから、昔は髪を洗うのにこれを使ってたんです。うちの幼稚園の主任が洗ったらしいんですけど、そしたら、すごい髪がさっぱりしたって。匂いは臭い匂いなんですけどね。昔、こんなので洗ってたのかって思うよね。さあいくよ（実を学生に投げてみせる）。

これは広島が誇る、日本で一番広島に多い木。広島が一番多い。生産量日本一やで。これ、レモンの葉っぱなんです。どんな匂いがするか知ってる？ レモンの葉っぱは（匂いをかいで）「レモンのおいがします」（笑）。レモンの木は棘があるでしょ。子どもたちがレモンを取ろうとしたら、指に刺さる。それでもとりたいた。園庭で子どもの前でレモンの枝を切ってたんですよ。落ちた葉っぱを子どもらが取って、ままごとした。子どもが（跳ねながら）レモン、レモンってやってたんですよ。なんでだろうと思って。レモンとか言うてへんのに。うち、名札もつけてないから、なんでレモンって分かったのかなと思って。聞いたら、「これ、レモンみたいな匂いがする」って言ったんです。レモンの葉っぱってレモンの香りがするんやって。広島の人そんなん知ってるかな。ちなみにね言うとかくけど、なんで広島が日本一レモンが多いか言うたら、広島は全部サンゴ礁が隆起して出来てる。サンゴ礁のところは、土がすごいアルカリになってる。サンゴっていうのは動物。それが死んでできた土壌がアルカリ土壌。アルカリ土壌のところにはレモンとかそういう柑橘類はできない。とくに広島ていうところの島はレモンが合ってたの。

これは分かる？ これもわりと広島に多いんです。カレーに使います。ローリエ。ゲッケイジュです。ゲッケイジュも葉っぱをパリパリの体験もカリキュラムの中に絶対書かれてない。葉っぱをパリパリして遊ぶなんていうカリキュラムを書いている人は絶対にいない。でも、こういう体験がすごい大事。基礎体験として、絶対にやってたでしょ。みんな、どんぐり拾って、家に帰ったことはない？ どんぐり、ポケットに入れて。保育園

の先生や、幼稚園の先生って、捨っても「家に持って帰らないで。幼稚園においとこ。また遊びに使うから」って言って、お家にもって帰らせない。いや違う。持って帰らせて、先生。触っているだけで、すごい五感を使ってる。そういう体験をしてほしい。

これはね、アガパンサスという植物の葉っぱです。これは、前の方の人は糸を引いてるのが分かる？ こうやって、ほら、見えますか？ 納豆みたいに糸を引くんですよ。子どもら、こんなのたまたまなく楽しい。潰してままとかしたり、だから、こういうものが環境の中にたくさんあればいい。これ、さっきのと似てるんですけど、違う植物です。これ知ってる方いたら、ちょっとすごい。これ、なにかわかります？ こっちは、「となりのトトロ」に出てくる大きい木。クスノキ。そうそう。「お父さん、あの木すごい。」「あれ、クスノキだよ」っていうあれです。クスノキという木は、葉っぱとか、木の皮を使って防虫剤を作る。その主原料になってる。だから、すごい匂いがするんですよ。防虫の樟脳ってわかります？ 最近使わないんですけど、樟脳の匂いがします。で、これにそっくりなのが、ヤブニッケイという木なんです。ヤブニッケイと言って、いわゆるみなさんがカフェとか行ったときシナモンがあるでしょ？ シナモンていうのは、これの茎を括くくってるんです。これの匂い嗅いでみて。これシナモンの木。

ちょっと見えにくくて申し訳ないんですけど、これはミントです。アップルミント。ミントって、何万種類ってあるんですよ。このミントは、アップルミントと言って、アイスクリームの上とかに乗ってるようなものです。これってね、食べると精神が落ち着くって知ってましたか？

これはね、木の枝です。みなさんが和菓子つまようじを食べるときに使ってます。和菓子の爪楊枝。なんていうか知ってる？ クロモジっていうね、ちょっと高級な爪楊枝。カルピスみたいな匂いがするんですけど、昔、歯ブラシかじがなかった時代にこれをかじって、これで磨いて、消毒もしてくれるんです。

日本人はこうやって、植物と共に生活してきて生活様式の中に取り入れて文化を築いてきた国民性があるんです。それだけ豊かに、広島なんかは水がきれいでしょう？ 水がきれいなどころには、

植物がいっぱい育つ。逆を言うと、木があるところにはきれいな水があるんです。広島は日本の中でも、相当植物がいい、誇れる場所なんです。ところが、おそらく今では、広島でも植物に触れない生活が当たり前になってきていると思われます。



カレープラント

これはカレープラントといいます。カレーの匂いがする。いろんな香りがするね。触った感じはどう？ 匂いがカレーです。

次はこれ、お寿司を食べるときに下に敷いたりします。食べることはありません。高級なお寿司屋さんに行ったら、今でも敷いてるところあります。ハランていていいます。これにお寿司をのせる。殺菌してくれるから、お寿司の生臭いものを置いてもいいんです。昔はそういうのもいろんな葉っぱの上に乗せて、その上に置いたら腐りにくいというので気付いた。これはね、あまりにきれいやからこういうふうに切って、みなさんのお弁当の仕切りにこういうのあるでしょ？ これをなんていう？ バランていていいうでしょ。あれは、ハランから作ってるから、バラン。やっぱり、日本では植物をいろんなところに使って生活様式の中に取り入れた文化があるんですね。

これはキンカン。ちょっと、僕、昨日熱でたから喉が痛い(キンカンを食べてみせる)。キンカン、皮だけ食べるっておもしろいよね。幼稚園でキンカンを植えるとおもしろいなと思って、ちょっと植えたんですよ。キンカンってたわわに実る。園庭にいっぱい植えたら園児がいくらとってもいいでしょ。蝶も卵を生んでくれるし。

じつは、これ、クリプトメリアていていいう木。これはヨーロッパの木です。これって、ちょっとトゲトゲで痛そうだけど、握ってみて。普通でしょう？ 痛くないでしょう？ これね、痛そうに見えるけど、触ってみたら柔らかい。切ってから1

年、2年経ってもこの色です。

それからこれは、ニシキギという木です。おもしろいね。木の幹のところのまわりにコルクの層が付いてるんですよ。本当に珍しい木。



ナンテンの実と果軸

これは、南天の実がなつたあとの果軸かじくです。南天の果軸っていうのはこんなにきれい。なんかツリーみたいでしょう？子どもがね、「わー、クリスマスツリーや」いうて、これに綿つけて飾った。子どもの心は、こういうのに気付いてそんな造形も生み出す。だけど、我々は、もう心が動かなくなってしまって気付かなくなってる。小さい頃は、こういうのいっぱいしてきてると思うんですね。

これは広島に多くあるタラヨウの木です。ここに傷をつけると、黒くすぐ浮かび上がってくる珍しい植物です。これは、「はがきの木」と言われてるんです。葉っぱに書くから、葉書はがき。この葉っぱは、切手貼ったら送れるんです。葉書の語源になったのがこれ。

広島というところはすごい水がきれいという話をしました。山があって、そこに雨が降って、水が濾こされて濾こされて、きれいな水がいっぱいできる。だから、美味しいお酒とか作る水が豊富なんです。その広島県というところにみなさん住んでいて、そういうことを意識もしないし、そういうことに気付いていない。今の広島県にいる子ども達がこういう体験をしていない。先ほど言ったような、オナモミとかひつつきむしで皆さんは遊んでいたのに、今の子ども達はそれを体験していない。そこで育つべきものが育ってこない状態になっていることを気付いてください。小さい頃、ままごとしたよね？木の実潰して。小さい頃にススキとかで手を切ったことありませんか？そういう体験を今しなくなってるということを、もっと、怖いと思ってほしいんです。

4 どうして今、自然環境なの？

なんで今、自然環境の中で遊ぶことが大事なのかということをもう一回整理しておきますね。人は自然の一員なんです。自然の中に生きていた動物なんです。だけど、この、たかが百年ぐらいのうちに文明環境というものをたくさん作ってそこに生きるようになった。だから、文明環境の中でばかり暮らしていると、自然が遠のいた事でいろんな精神状態になってくるんです。だからときどき、緑を見たいとか、山行きたいなっていう言葉がポロッと出る。もともと森や山に生きていた動物だということを忘れてはいけません。じゃあ、そういう視点から考えると、絶対に、今の幼児教育の中で、もっと自然教育を大事にするべきなんです。カリキュラムの中に、土をぺたぺたして水が浮いてくるような遊びがあるでしょうか？雨が降ったあと、ペタペタやってやったら、プリンみたいになるって喜んで「ペタペタやー」言うて、でも、ああいう重要な遊びってされてる？幼児教育のカリキュラムの中に、土ぺたぺた遊びとかそんなん書いてあることないでしょ？名前すらついてないよね。だけど、あれやったら楽しかったでしょ？今の子ども、あれをやってる？土の香りするでしょ。匂いを嗅いでとか、ああいう体験を、今の子してるかな？たぶんしてないよ。人は自然の一員なんです。もっともっと自然を知るために、五感が鋭敏になってるこの時期に、自然に触れて、知らないとだめ。我々大人は臭い木の実を取りに行つて、臭い臭いって喜んだり絶対しないけど、子どものとき、臭い木の実を取つたら、絶対に、先生臭い臭いって実を持っていきます。さっきの葉っぱのペタペタのとか、大人は触りたくないけど、子どもは何度もやってみようとする。子どもは、グチュグチュ、ドロドロになつても平気ですもん。五感が鋭敏で皆さんが感じてるよりももっと心を動かしてる。それが脳を刺激してる。

自然体験の中で先生がね「はい、皆さん、今から木のこと教えますよ。はいみんな並んで。痛いでしょ」こんなことをさせるでしょ。勝手に自分が触ればいいよね。うわー痛い、「手に刺さった」っていう子もいれば、触らなくてもいい、触りたくない子もいる。この中で、自然体験が全員同じかというのと違います。さっき言ったように、

ひつつきむしを、知ってるいう子もいればそんな知らんっていう人もいます。違っていいんですよ。偏りがあってもいいんですよ、自然体験というのは。だって、海辺の人は海辺の自然体験をするし、山の人は山の自然体験をする。さっき言ったのは、多様な体験をそれぞれの場所で、でもこういう体験を豊かにさせてあげることは絶対大事なんです。「うちはコンクリートの園庭だから無理です」じゃなくて、そこで何かできる自然体験は？ うちの園も普通のグラウンドでした。環境を全部作りあげていけばいいのです。人は関わっていく自然の中で、ゆたかな自然体験ができることでちゃんと心が育ち、脳が育っていくのです。

5 自然環境の中で元気に遊び、心も体も健康に

保育しておられる方は分かると思うんですけど、子どもって保育の途中で「先生、外まだ？」ってよく言うんです。でも、先生たち、それに苛^{いら}ついてるんですね。せっかく折紙とか教えてたり、歌、歌ってたのに。だから違う話してる時にね、「先生、外まだ？」って、子どもたちはよく言うんです。僕らはそうだって理由が分かるんですけど、イライラする人は「もう、それ言わないでって言うてでしょ。今違うことやってるよ」とか、言ったりするんだけど、また、子どもは次の週くらいになったら「先生、外まだ？」って言います。もうまさに本能。外に出たい。外に出て自然に体を動かす。別に走りまわらなくてもいい。ぶらぶら歩いていてもそれが健康に繋がる。それはなぜかという、体は運動的なことをするから健康になるんです。この言葉を聞いたことがありますか。

[スライド：森林浴]

フィトンチッドという言葉、森林浴って聞いたことある？ 森の中に入ったらどんな匂いしますか？ (学生に質問)。森の香りって分かる？ 風が吹いたり、雨のあとなんて森の匂いしない？ みんなでイメージしてみて。葉の香りのような、木の匂いみたいな。森の香りって独特な植物の香りがするんですよ。木っていうのは香り出してるんですよ。香りを出すのは自分を守るためだったりするんですが。また、緑を見なさいって言うたりすることはないですか？ 疲れたとき緑を見なさいって言う。目が疲れたとき、遠くの緑を見たらいいとか言うね。本当に緑を見ると人間の精

神って落ち着くんですよ。これはもうデータが出ているんです。その緑を見るのと同時に、今度は香り。植物の香りを感じるともっと心が落ち着くんです。うつ病の人とか増えてきてます。何で増えてるか知ってますか？ まさにこのビルや町中のコンクリート社会の中に人間を持ってきてしまったから、精神が落ち着かなくなったんです。不安定なんです。動物っていうのは森の中にいるもの。森の近くとか、森の香りを嗅いで生きているんです。フィトンチッドっていうのはロシア語です。ボリス・ペトロビッチ・トーキンという人がロシアで発見した。ロシアにはものすごく針葉樹が沢山あって、匂いのする木もいっぱいある。で、なぜか、「森の中がいいな」と思うところから研究しだしたそうです。なんで森って匂いがするんだろうというのを探った。木は風が吹いたら揺れる、揺れたら揺れた部分が歪んで曲がる、曲がった所にちょっとひびが入る。そのひびから菌が入らないように、わざわざ消毒液を出すんです。植物が自分で、自分を守るために出すもの、これがフィトンチッドという成分なんです。それが匂いとして落ちてくる。だから、雨の後とか、風の吹いた後に森の近くに行くと、森の香りがするってわけです。緑とフィトンチッド、これが自然の中で人が落ち着き、健康になる元なんです。

今の子どもたちは、DVDとかゲームとか、視覚情報を多く得ているんです。保育の内容もカード見せて勉強させたりとか。五感には他に何かありますか？ 嗅覚、匂いね。触覚、触る感じ。味覚。これらが複合化されていくから脳がより発達するんですね。今の子どもたちは視覚と聴覚に偏っているから脳をあまり発達させていない。これは怖いことですよ。

今の若者がススキを触ったりしたら、手を切ってしまう。大学の授業で学生に「ススキの矢飛ばし」を教えたのですが、ほとんどの学生が手を切ってしまうんです。今の若い人は体験がないから。こうやって持たないと手が切れるよと教えたんですが、切ってしまう。危険回避能力が育っていないということ。手先が不器用というレベルではない、体験が無いから、応用力も育たないのではないのでしょうか。

感性も大事ですね。キンモクセイの香りを嗅いで秋らしいなあと思うでしょ。外国の人はキンモ

クセイを秋の香りと思わないんです。でも我々はキンモクセイが咲いたら「わー、いい香りやね」って思うでしょ。それは人生の豊かさでしょ。豊かな体験ができるから生きていくわけです。

俳句をする方はまさにそうですね。母が俳句やっているんですが、書いてるの見てたら「いい句やなー」って思います。僕もちょっと、ハンミョウの俳句、作ってみました。ハンミョウは背中に虹色の模様のあるきれいな虫で、人間が歩いて追っかけたら、道を教えてくれるように動くから「道教え」。僕が坂をのぼっていると、プーンって行って、思わず「みちおしえ 羽音かすかに登り坂」ってね、俳句作ってみましたけど(笑)。

心が豊かでいろんな体験をしている人は、ちょっとしたことでも楽しめる。これが生きる力なんですね。幼稚園教育要領を読まれたことがありますか？「自然に触れること」の大切さが書いてあります。でも、先生たちの研修では自然や自然環境の話より、造形や音楽の方が人気があるんですね。だから皆さんに考えてほしいわけです。みなさん、ちょっと出原いずはらがわけわからんこと言っとったなーっていうところから、ちよくちよく幼児教育を見直してほしいんです。幼児教育ってそんなめんどくさいものじゃないんですよ。子どもと共に心を豊かに自然の中に入ったら「いいなー」と思うことがいっぱいあるんですよ。世界で初めて幼稚園作った人だれか知ってる？ フレーベル？ 正解。フレーベルは幼稚園をなんて言うたか知ってる？ そうそう。キンダーガルテン。キンダーガルテンとは「子どもの庭」という意味。フレーベルは幼稚園や園舎を作ったんじゃないで、外でずっと遊ぶ体験を大事にした人。フレーベルは生物学、特に植物学に造詣そうけいが深い人だった。僕もすごく尊敬しているのですが、そのフレーベルが「子どもの庭」といったのは子どもたちは庭でいろんな体験をしていくことで生きる力を育てていくってことをキリスト教の教育として大事にしたんです。フレーベルという人は子どもの育ちが本当に分かる人やったから戸外の活動の必要性があるってことを検証したんです。小学校より前の教育が大事なんだと。ところが今、日本で幼稚園はもう150年くらいの歴史があるわけですけど、この歴史の中で戦前、子どもの庭の部分部分が大事にされていないと私は思うから、今日

みなさんにお話しさせていただきました。

6 動植物とのふれあいによって生命の尊さに気づく

こんな虫気持ち悪いとか… (青虫の写真)、よくお母さんとか女の先生とかで「男の子って嫌だー！もー！すぐ虫。こんなん捕まえてくるし、虫殺したりするー、残酷。」って言いませんか？ 皆さんうなずいておられるけどね、実は男も女もなく、なんで子どもが虫を殺すか分かります？ これ本能なんです。どれくらい触ったら死んでしまうかっていうような体験を小さなうちにしとかないと命っていうものを知る体験ができない。別に殺してもいいんですよ。ただ、子どもがね、例えば幼虫をグチャグチャ殺しているところを「わあー、いい体験してるねー。」なんて言うのはあかんよ。それは絶対やっちゃいかん。そんなことしたら、やっぱり命の教育上よくない。そんな見るときは「うわー、かわいそうやん」って言うてあげることは大切やと思う。けど、ずっと命令口調で、「それはしないのよ。やめときなさい」って言って触らせない。それとか生き物に触れさせない先生達。みなさんも虫が嫌いな人多いでしょ？「うわっ気持ち悪い。やめてやめて」と言うて子どもの興味・関心が全然そっち向かない。

皆さん、子どもの前に立ち回らんだったら覚えといて。子どもの前に立った瞬間から子どもはその人のことを信頼してその人のことを大好きになるよ。その大好きな人が生き物に対してどうゆうふうな顔をするか、どうゆうふうふうに心に向けているかっていうのを子どもはよく見えています。「うわー、虫とってきたん？ 先生よう触らんけど、〇〇ちゃんここ来て。葉っぱ取って来て。飾かざりってあげようか。」とか言うてあげる人が命の教育をしてる。そう思います。

7 子どもを見守る大人として—子どもと一緒に感動、共感、遊びの伝承者、自然体験の機会、環境の保障—

さっき僕が黒い実を見せたあの木の実ですが。子どもが採ってきた時に、実習生が「うわっ、くっさー。そんなん触らんとき。」って言った瞬間、その子はポーンって実を捨ててしまった。子どもがせっかく興味持って触りたいって思ってるのに、「先生、臭いでー」って言うてるのに何も共感していなかったんですね。

今の大人として我々はやっぱり科学体験をしていくことが大事です。さっき言うたように木の実を持ってきた時に「ふん」で終わらずにね。お母さんとかこんな人いますよ。子どもが「お母さん。どんぐり今日採ったー！」とか言うたら「またどんぐり？ もう持って帰るのをやめなさい。」とか言うてね。どんぐりの中から虫が出てくるって、お母さんが煮沸したって言うんです。殺虫剤撒いたりとかね。中から出てきた虫飼うたらいいよね。あれねー、クヌギってどんぐりの中からよう出てくる。ゾウムシって言う虫が出てくるんです。それで土入れて葉っぱとか入れてたら、春になったらね、鼻がゾウムシみたいな虫が出てくる。知ってた？ むちゃくちゃかわいいよ。子どもに見せてあげたら「うわっ、ゾウムシ」って言う。始めは、「気持ち悪い！なんか出てきた」。チャンスやん。「わーっ、何これ？」て言うチャンスや

ん。それを大人がダメにしている。だから、大人はそういう遊びを一緒に喜んでできる伝道者であり、彼と共感してあげる人であるべき。そして幼稚園とか保育所とか子どもたちが活動するような場所をそういう自然環境ゆたかな空間にしてあげべきなんじゃないでしょうかね。

(ここで、有毒植物の話：コラム参照)

ということであつという間に2時間過ぎてしまいましたけど、どうでしたか？ 植物の話。おもしろくなかった？ 人は自然の出している空気を吸って、自然物を食べて生きています。自然の恩恵を受けています。自然に感謝をして自然と共に共存し合える関係になれます。それは今も変わらないので、そのことを振り返ると、おのずと自然環境の中での子どもたちの遊びが大事だということが分かるんじゃないでしょうか。私はそういう人たちに繰り返し話したいなと思っています。

コラム：気を付けよう！有毒植物

現在日本には、およそ2000種の有毒植物があるといわれています。実は、2012年に有毒植物で808例の誤食がありました。これ、ほとんど子どもです。子どもって葉っぱかじるでしょ。何でもなめるでしょ？ 昔はなぜそれを避けられたかと言うたら、「大人がそれ毒だぞ！」と教えることができたからなんですよ。ところが今、教えてくれる人があまりいないんです。この808例のなかで数名、子どもが亡くなっています。ちょっと有毒植物を紹介します。

・ヨウシュヤマゴボウ

小さい頃、ブドウみたいって、これ潰して色水作ったでしょ。実は「毒がある」と幼稚園で抜いて捨てたりしてた。毒性の高い順は、根>葉>果実。根っこを煮て食べたりしては絶対にダメ！

・アンズ

アンズとかウメとか、緑色の実を食べたら死ぬって、知ってた？ 青い梅は絶対ダメ。子どもが触るのもあかんって、昔はよく言うてたんです。

・キョウチクトウ

これは強い木だからよく、空気の良くないところとか高速道路の脇とかに植えてある。1番多いのは小学校の校庭。葉っぱが肉厚で水をほとんどやらなくてもよく育つからね。でも、葉っぱを1枚かじっただけで死にますよ。

・ナンテン

ナンテンって身体にいいイメージ無い？ のど飴とかね。いいイメージがあるんだけど、ナンテンの実には毒が強いんですよ。葉っぱはおこわや赤飯の上に乗ってるでしょ。昔は熱いおこわの上に置いたんです。そうすると、アルカロイド系の毒が熱でとんでしまったのね。昔の人の知恵です。青い実はもちろん、赤い実も、干さないで食べた人は死にますよ。

(この他に、ナンキンハゼ、キダチチョウセンアサガオ、ノウゼンカズラ など紹介。)

遊びの中で子どもたちは植物をなめたり、触ったりします。大人は十分な知識を持ち、子どもたちにもしっかり伝えていくことが大切です。